

TS（トータル・サティスファクション）を目指して②⑦

スキップ監督から学ぶ

校長室担当

私が心から応援するサンフレッチェ広島。去る11月22日には、稀にみる激戦の末、カップ戦初優勝を果たしたことは皆さんがご存知のことと思います。サッカーの指導者に限らず、何がここまでチームを強くしたのはとても気になるところです。今年から指揮を執るミヒヤエル・スキップ監督。ドイツ1部リーグのシャルケでプレーしていた頃から、失敗した選手をひどく叱る指導者に違和感を持っていたようで、「ミスをしたことは本人が一番分かっている。もう一度問い詰めることが得策とは思えない。」と語っておられます。また、YouTubeで配信される試合前後のスキップ監督は、自チームだけでなく相手チームへのリスペクトも忘れていません。どの試合の前にも、相手チームの良さを認め、そんな相手を上回ることで自分たちは成長できるのだという声を必ずかけておられます。

私も実際にサッカーを指導してきた中で、チーム内の選手同士で文句を言い合う場面を多々見てきました。ミスをした選手に向けて味方の他の選手が「こんなのやっとなれん!」「へたくそ!」等とかなり汚い言葉を口にしたり、陰で文句を言ったりする場面もありました。そうした時、指導者は次のように対話をします。まずは、文句を言う理由をしっかりと聞く。次に文句を言うことでミスがなくなるのかを問いかける。そして、ミスをした選手は自分がミスをしたことは理解できていて、そのミスがよくなかったことも痛感していること、ミスは必ず起こるものであり、プロ選手でもミスはするということ。ミスをした味方に文句を言うということは、自分たちがもっとよくないプレーをしてしまう状況に追いやっているとということだということ伝える。その上で、文句を言うのではなく、彼を助けるには自分はどうしたらいいか、次にどうしたらいいかを一緒に考えることが、お互いにとってよっぽど実りがあることであると気づかせる。

これは大人であれば誰でも理解できている、ごくごく当たり前のことです。そして、私たち大人からそうしたことを考える機会をもらえたら、子どもたちはコミュニケーションの取り方、一人一人異なる価値観の持ち方と調整能力、相手へのリスペクト等を結果として学ぶことができま

す。子どもたちは、これからの新しい時代を楽しみ、幸福な人生を歩いていくためにはこうした力を身につけていかなければなりません。だからこそ、いつもお願いしているとおおり、私たちの立ち居振る舞いというのは本当に大切です。でも難しいことをお願いしているわけではありません。きちんと挨拶をする、他者を非難する言葉を使わない、相手へのリスペクトを示す、対話を重ねる、ポジティブに取り組むといった一人の人間として当たり前に必要なことを、われわれ大人が普段から手本として見せる必要があります。そうした姿を日常から目の当たりにすることで、子どもたちは自然に確かな価値観を身につけることができるのだと思います。私自身もスキップ監督から、そんな当たり前でありながらとても大切な姿勢を改めて学ばせてもらっています。サンフレッチェを応援しながら、いい学校を創りましょう、一緒に。(令和4年11月7日)

本校教職員として目指す方向性（確認）

※令和3年4月1日にお願したこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める